

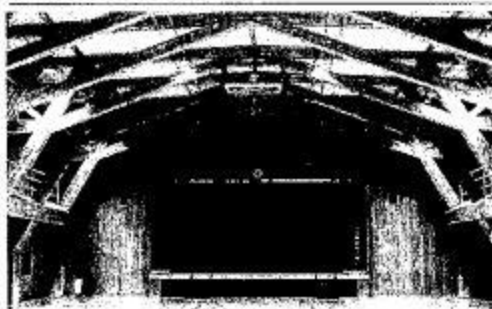
# 県産材比率97%の木造農学校

## 構造、内装で木材利用

埼玉県農業大学校

埼玉県農業大学校は来年4月、鶴ヶ島市から熊谷市へ移転するが、これに伴って新校舎を建設している。校舎は約13畝の敷地に計22棟で構成され、教室や寄宿舎等の建築物には埼玉県産材の構造材や内装材がふんだんに活用されている。完工は12月を予定しており、14日に関係者向け見学会が開かれた。

新農業大学校の校舎は、講堂、ゼミ棟、職員棟、食堂などで構成された9棟を通路棟がつないでいる。木のぬくもりや香り、素材感を感じてもらいたいことが



コンセプトで、公共建築物等木材利用促進法の施行後、県が設計段階から取り組む初の大型木造建築物となる。敷地面積は約13万平方メートル、建築面積は7123平方メートル、延べ床面積は7681平方メートル。棟や接合部によって採用する構造は異なるが、木造、木造・鉄筋コンクリート混構造、鉄骨造で、計22棟を構成している。

設計は三四五建築研究所で、施工は島村工業ほか11社が手掛けている。工期は2012年11月から今年12月までで、工費は約20億円(車寄せ、外構除く)。使用した木材総量は約1109立方メートル、うち県産材は97%を占める。県産木材の調達には「さいたま県産木材認証制度」により認証・確認された木材を利用している。

丸太伐採・搬出は森林組合(埼玉県中央部、こたま、秩父)

講堂正面はLVL積層面を縦づかいにして耐久性を引き上げている。角材で加工した。角材で63%、ラミネートで37%を供給し、集

成材は協同組合遠野グループラムで生産している。構造用集成材の接合はシェルターのKES構造を採用する。

内部は木架構を見せ、杉材等の風合いを生かした意匠デザインとした。講堂正面には構造用LVL(単板積層材)を内装材として生かす「キーラムインテリア」を用いた。LVL積層面のデザイン性に着目した商品で、今回が大型物件で初となる。製造はキーテックで、LVLは講堂、メディアギャラリー、通路等壁、学生寮階段にも使われている。

壁材は県産杉の12mm厚羽目板、床は県産杉の30mm厚やFJL、一部硬度が必要な部位に輸入広葉樹材を使用している。

天井にはJAKまがや産のみみ殻をボンド状にしたエコボードを張り付けている。埼玉県農業大学校は1945年に前身の県立農民道場として開校。定員は145人で、野菜学科や水田複合学科など5学科8専攻で農業の担い手を養成する教育を実践している。

天井には、当社取扱商品の

「もみからエコボード」が採用  
されました。

株式会社コバリン

総務部